防災 かわにし
～みんなで減災～

令和6年2月16日発行
川西まちづくり委員会
安全防災部会
TEL 080-5827-9724
(川西地域自治センター内)

東日本台風被災地を視察して
長野市長沼地区視察研修報告

令和5年8月20日、川西まちづくり委員会安全防災部会は、令和元年10月に発生した東日本台風で大きな被害を受けた長野市長沼地区を視察しました。

長沼地区住民自治協議会の住田昌生事務局長から、当時の被害状況や実際に住民を避難させた経験から出てきた課題、今後の取り組みについて説明を受けました。

長沼地区住民自治協議会
事務局長 住田昌生氏よる説明

長沼仮設庁舎前から千曲川「桜づつみ」堤防を見る

その後、被災地を実際に歩きました。4年が経過した現在でも、改修できず被災したままの状態の住宅や、堤防の決壊による水害で倒壊した寺院の灯籠、また改修工事の進む堤防など、被災地の今を見ての研修でした。

長沼地区住民自治協議会の住田昌生事務局長のお話から

長沼地区の被災状況

長沼地区は、長野市の北東部に位置し千曲川に沿って4つの行政区で構成された南北に長い地形で、人口約2,500人、世帯数約910世帯、地区面積6.2平方キロメートル、高齢化率38.2%の地域である。果樹園や水田に囲まれた中に住宅地が点在している。地名の「長沼」は、千曲川の流路にできた形によ

堤防道路改修工事に伴い仮植えされている
桜づつみの桜

◆◇ 過去の長沼地区の大災害 ◇◆

『戌(いぬ)の満水』
1742年8月2日に5メートルを超える浸水。
死者168名、家屋の流失294戸。

『大みずまし』
1896年7月21日に3.4メートルを超える洪水。

『その他の洪水』
明治時代42回の洪水
昭和58年内水氾濫　　平成16年内水氾濫

過去の長沼地区
大水害の記録が残る

流失の難を逃れた住宅　浸水のままの状況で未改修

るものと伝えられ、その名の通り過去にも大きな水害を何度も経験している。過去の水害時、地区内には指定避難所がなかった。

令和元年（2019年）10月13日の東日本台風（台風19号）では、千曲川堤防決壊、約4,000棟の住宅が被災し、災害関連死を含む17名が犠牲となった。

長沼地区の水害に対する取り組み　『防災訓練』

過去の災害の教訓から防災訓練を昭和53年から毎年6月に地区全体で実施している。炊き出し、消火、土嚢づくり、連絡体制の確認等を行う。

昭和58年の水害を契機にりんご栽培の繁忙期を避け、梅雨期の6月に“総合防災訓練”として、情報収集・伝達・本部の設置・避難・誘導・交通整理・水防・初期消火・救護等の訓練を実施している。

流失を逃れた住宅と千曲川堤防

『防災訓練』取り組みの問題点

- 役員中心の訓練だが、役員は年度ごとに替わってしまい、防災意識の醸成がない。
- 過去の水害に遭った経験者は転居してしまい、ほとんどが地域内にいない。
- 桜づつみ堤防ができたので、千曲川は決壊しないと思っていた。
- 各種訓練は、危機意識のない訓練に終わっていた。

訓練は実施していたものの、上記のように危機意識のない訓練となっていた。
（このことに関しては、当川西地区も同じではないだろうか。）

◆◇ 令和元年東日本台風第19号の概要 ◇◆

令和元年10月6日南鳥島近海で発生した台風19号は、7日には大型で猛烈な台風に発達し、12日19時前には伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13日未明に東北地方の東海上に抜けた。

この台風の接近・通過に伴い、県内では12日午前0時から13日24時までの48時間総降水量は、長野136mm、上田143mm、佐久303mm、軽井沢315mmを記録し降水量統計観測開始以来の極値を更新した。

この大雨により、長野県を含む1都12県に大雨特別警報が発表された。大雨の影響で広い範囲で河川の氾濫が相次ぎ、発生した土砂災害や浸水被害は、人的被害、住宅被害、電気・水道・道路・鉄道施設などのライフラインやインフラへの被害をもたらした。

写真：「“猪（しし）の満水”（令和元年東日本台風）災害デジタルアーカイブ（提供：長野県・信州大学）」より

取り組みの見直しと防災計画――問題点と課題及びその解決策

防災計画を作成する過程で発生した問題点や課題に対して、取り組みを通じて更なる解決策を考えている。また、地区の防災計画の本質を踏まえ、先進的取り組み事例についての理解を深め、地区の計画作成の目的、目標等について話し合っている。

さらに、計画の実効性を検証する継続的な取り組みが重要である。「計画を作成すれば目標達成ではない」ことを認識し、年間スケジュールを作成して活動報告等を行う仕組みづくりを検討する。

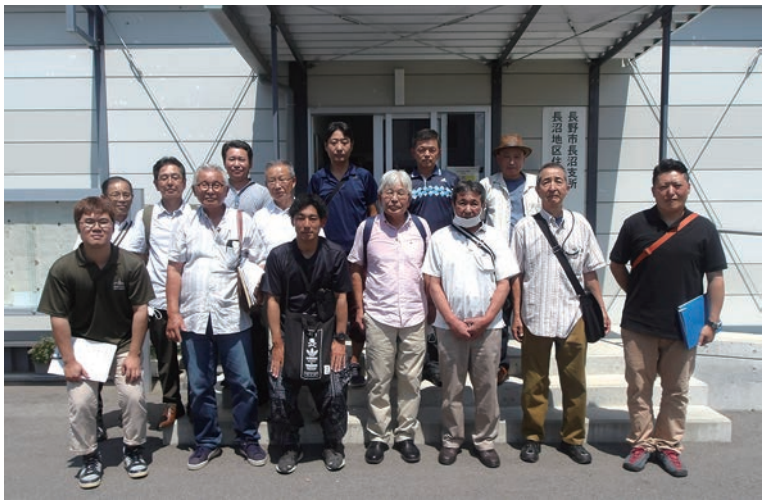
堤防の決壊で倒壊した寺院の灯篭

千曲川河川事務所から河川水位について説明を受け、地区独自の避難基準を設定し、平成27年に「長沼地区防災計画」及び「平成27年度版長沼地区避難ルールブック」を作成。地区全世帯に配布し、毎年6月に実施する「長沼地区防災訓練」にて毎回、内容を検証している。

＊　＊　＊

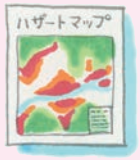
今回の視察を終えて感じたことは、災害は自分の身にも起こりうることとして危機意識を持って行動すること、具体的な行動の策定が必要であるということです。

川西地域でも、台風19号の教訓から次のことを検討していきます。



川西まちづくり委員会　安全防災部会の視察メンバー

1. 情報連絡体制の再検討
   コミュニティタイムラインに基づいた“早期の避難行動”を支援する体制づくり
2. 本部体制の再検討
   警戒から立ち上げに至る活動内容の検討と基準の確立
3. 自主防災会の体制再検討
   住民の個人情報と安否確認、避難誘導方法、“我が家の避難計画”策定と推進
4. 情報や状況の地域での共有
   対応だけでなく構えも必要
5. 地域での避難行動の検討
   避難ルールの改善、要支援者対策（支援者、要支援者ともに負担の少ない避難支援の検討）、コミュニティタイムラインの作成



我が家のマイ・タイムラインをつくろう

川西まちづくり委員会安全防災部会では、我が家の防災として「マイ・タイムライン」の作成を提案します。

中ページにある「マイ・タイムライン」を利用して各ご家庭で「我が家の避難行動計画」をつくり、ご家族で共有しましょう。記入例をもとにみんなで考えて、マイ・タイムラインをつくることが大切です。

【マイ・タイムラインとは】

「私」の、そして「家族」の「避難行動計画」です。大雨や台風の接近など、これから起こるかもしれない災害に対して、取るべき避難行動をあらかじめ時系列で整理しましょう。「私」や「家族」に適した避難方法などをあらかじめ決めておくことで、災害に備えましょう。

【マイ・タイムライン作成のポイント】

災害ハザードマップ等で居住地の水害リスクなど、私や家族に関係する災害情報を“知る”ことから始めましょう。そして、私や家族が避難する際の課題に“気づく”ことや、どのように行動するかを“考える”ことが重要です。

編集後記

私たちの生活するこの川西地域は、急峻な地形、地質、気象等の自然条件から、地震、台風や梅雨前線による集中豪雨の際に、洪水や土砂災害などの自然災害が発生しやすい環境にあり、ときに深刻な被害をもたらすことが予想されます。

現在、地域社会における結びつき「コミュニティ機能」は、生活様式の多様化などにより親密な人間関係が少なくなってきています。さらに、消防団においても、少子高齢化、社会環境の変化、就業構造の変化、過疎化、地域の連帯意識の希薄化などにより、団員数は年々減少している現状があります。

地域における自主防災の意義と役割を担う自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づいて、自主的に結成組織するものです。そして、災害による被害を防止し、軽減するための活動を目指しています。（防災士：滝澤克彦）

【川西まちづくり委員会　安全防災部会　委員名簿】

部会長：滝澤克彦（小泉）
副部会長：伊藤峻（第20分団）
委員：居鶴勉（浦野）
委員：大澤勇樹（第18分団）
委員：久保田聖（第19分団）
委員：長坂英一（岡）
委員：宮下秀樹（交通安全協会　川西）

イラスト　ミヤザワツトム